

令和3年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人ワーカーズわくわく	代表者	理事長 飯塚 陵子	法人・事業所の特徴	住み慣れた町でその人らしく穏やかに暮らすことを支えることを理念に柔軟なプランを提供している。訪問体制も強化しており、きめ細かなサポートで在宅生活を支えている。新型コロナウイルス感染拡大の中、感染対策を徹底しながら利用者の楽しみを増やす工夫を行っている。毎月のおたより発行の継続により地域とのつながりを途絶えさせないことを心がけている。地域に開かれた事業所をめざしている。
事業所名	わくわくの里	管理者	飯塚 陵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1名(書面)	1人	2人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価期間において個々の取組みを把握し適切な評価を出せるようサポートしていく。	10日間の期間を設けて取り組んでいただいた。項目によって関心度に温度差がある。	全職員が個別評価に取り組んでいることは評価できる。常勤職員の意見が反映された自己評価が作成できた。	個別評価項目のわかりにくい点に説明を行い理解度を深めていく。評価期間に余裕を持つ。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設内部の様子をどのように情報発信していくか検討していく。	新型コロナウイルス感染拡大により外部の受け入れに制限がかかる中、おたよりを通じて地域や会議参加者への情報発信を行うにとどまった。	新型コロナウイルス感染拡大の中、事業所として努力していることがうかがえる。	感染状況と社会的判断をふまえながら、できる範囲で事業所の様子を伝える努力と工夫をしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	ネットワークを活用してコロナ禍でも地域とつながっている工夫をしていく。	ネットワーク活用については、地域とのつながりの中で発揮することはできなかった。	地域サロンの状況把握やその情報発信に努められるなど工夫していることが感じられる。	地域の方とのかかわりについてゴミ出しの手伝いやあいさつなど身近なかかわりを大事にする取組みを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	自宅訪問が増加しており近隣住民とのスムーズな連携が行えるよう職員間での情報共有を強化していく。	訪問が多くなる中で近隣の方と顔を合わせることも多くなり顔なじみの関係の中でスムーズな連携ができていく。	できる範囲の中で努力されている。受け入れる地域の側も事業所に対して協力していくことが必要かと思う。	利用者自宅周辺の情報共有を強化しつつきめ細かな対応ができるよう取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	感染対策を行いながらできるだけ顔を合わせての運営推進会議開催を実行していく。	書面会議の事業所が多い中、対面での会議にこだわってきた。生の声を聴くことの効果は大きいと感じた。	虐待案件や最新の補聴器や福祉用具の情報提供など共有できた。具体的な意見を聞くことで参考になっている。	対面での会議開催を基本にしながら、スタッフの参加もできる体制を整えていく。
F. 事業所の防災・災害対策	コロナ禍は続く方向ととらえ、机上訓練での情報共有を進めていく。	消防署立ち合いでの訓練はできなかったが事業所内での避難訓練は実施し振り返りも行った。	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い避難訓練への地域参加は困難だが訓練は大事だ。	災害時の自助・公助・近隣との連携など具体的な話し合いの場を持ち、訓練への参加人数も増やしていく。